

石川工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	環境倫理	
科目基礎情報						
科目番号	15370		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	機械工学科		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教材等: プリント配布 参考書: 鳥越皓之『環境社会学』東京大学出版、2004					
担当教員	田中 純一					
到達目標						
1. 減災社会の基本的考え方について理解を深めるとともに、自分自身のことばで説明することができる。 2. 自然と人間との共生について理解を深めるとともに、自分自身のことばで説明することができる。 3. 社会的事象について自らのことばでコメントする基礎的スキルを身につける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標項目1	減災社会の基本的考え方について理解を深めるとともに、自分自身のことばで正しく説明することができる。		減災社会の基本的考え方について理解を深めるとともに、自分自身のことばで説明することができる。		減災社会の基本的考え方について理解を深めることができず、自分自身のことばで説明することができない。	
到達目標項目2	自然と人間との共生について理解を深めるとともに、自分自身のことばで正しく説明することができる。		自然と人間との共生について理解を深めるとともに、自分自身のことばで説明することができる。		自然と人間との共生について理解を深めることができず、自分自身のことばで説明することができない。	
到達目標項目3	社会的事象について自らのことばでコメントする基礎的スキルを正しく身につける。		社会的事象について自らのことばでコメントする基礎的スキルを身につける。		社会的事象について自らのことばでコメントする基礎的スキルを身につけることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
本科学習目標 1 本科学習目標 3 創造工学プログラム C3 創造工学プログラム D2						
教育方法等						
概要	本講義では自然と人間との関係を、交通問題、野生生物との軋轢、災害といった具体的事例を題材に、自然と人間との関係に関する基本的知識を習得するとともに、問題解決に向けた多様なアプローチが存在することを理解することにより、科学的・客観的合理性だけでは解決困難な諸課題に向き合うための基礎的能力を身につける。					
授業の進め方・方法	事前事後学習など: 到達度目標の達成度を確認するため、適宜、演習課題を出す。 関連科目: 倫理, 現代社会, 歴史, 地理, 法と社会秩序					
注意点	注意事項と学習上の助言: 指定した課題については事前に読んで内容を理解した上で授業に臨むこと。 小レポート等提出物については、仕様、提出期限などをしっかりと守ること(特に提出期限は厳守)。 講義時間中の入退出、携帯電話等の使用、私語は厳しく対応する。 評価方法・評価基準: 授業への参加及び意欲(グループディスカッション等)(10%) レポート・小テスト(20%) 中間試験(30%) 期末試験(40%) 成績の評価基準として60点以上を合格とする。					
テスト						
授業計画						
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標		
		1週	ガイダンス 環境問題とは何か	環境問題とは何か、説明できる		
		2週	環境問題の社会的アプローチ① 受益圏・受苦圏	受益圏・受苦圏について説明できる		
		3週	環境問題の社会的アプローチ② 生活環境主義	生活環境主義について説明できる		
		4週	人間中心主義VS人間非中心主義	人間中心主義VS人間非中心主義について説明できる		
		5週	世代間倫理	世代間倫理について説明できる		
		6週	ローカルな環境倫理	ローカルな環境倫理について説明できる		
		7週	野生生物との共存	野生生物との共存について説明できる		
	8週	海は誰のものか	海は誰のものか、説明できる			
	4thQ	9週	交通問題から考える安全・安心なまちの条件	交通問題から考える安全・安心なまちの条件について説明できる		
		10週	自然災害と私たちの暮らし①	自然災害と私たちの暮らしについて説明できる		
		11週	自然災害と私たちの暮らし②	自然災害と私たちの暮らしについて説明できる		
		12週	災害の不等性とは	災害の不等性とは何か、説明できる		
		13週	災害ボランティアとは	災害ボランティアとはどのようなものか説明できる		
		14週	減災社会	減災社会について説明できる		
		15週	総括・まとめ	総括・まとめ		
16週						
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	4	

				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	4	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	4	
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	3	
現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を説明できる。				3		
社会における技術者の役割と責任を説明できる。				3		
環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。				3		
環境問題を考慮して、技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。				3		
分野横断的能力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	3	
				公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0